

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福 井 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福 井 市 藤 島 中 学 校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	4	0	14	28
生徒数	169	180	158	0	507	

研究の概要

1. 研究主題

新しい自分を発見する ―確かな学びが、輝く生徒をつくる―

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

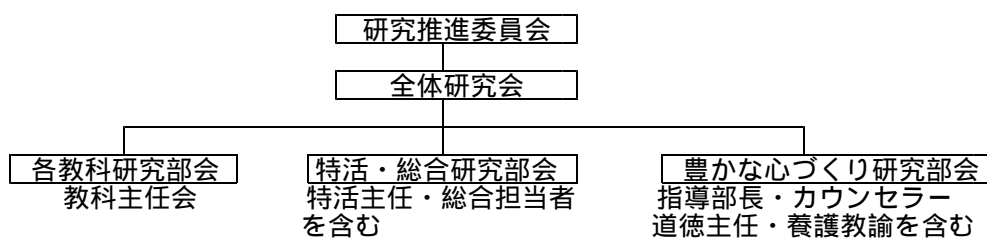
全教科・領域で実施
 (理由) 各教科・領域の指導方法や指導内容の見直しを図り、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の推進を図るため。
 様々な授業や活動で身に付けた確かな学力を生かし主体的に学習や生活に取り組む中で真の輝きを持って自己の向上を図ることのできる生徒を育成するため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 新しい自分を発見する―確かな学びが輝く生徒をつくる―</p> <p>研究の見通し 学び合う生徒集団による確かな学力の育成の方策とその活用に関する実践研究を行うことで、様々な場面で主体的に活動し自己の向上を図ることのできる生徒の育成を目指す。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 確かな学力づくり 指導方法・指導形態の改善 数学のT・T、英語・理科の少人数指導、多様な学習法の効果的導入 学習の個性化の促進 発展的学習や補充的学習の充実、多様な選択教科・コースの設定 学習環境の整備 確かな学力の定着や個に応じた指導に生きる教材の開発 評価の改善 年間カリキュラムの見直し、自己変容につながる評価や指導に生きる評価の検討、学習の実際に即した評価規準と評価方法の検討</p> <p>(2) 学び合う生徒集団づくり 学び手としての生徒の健全育成 学びを生かし、生徒が企画・運営する諸活動の充実 道徳教育の充実 学習に関する教育相談会の実施</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 現段階では継続の予定</p> <p>研究の見通し 初年度の研究や実践を基に一層の学力向上の方策を検討するとともに、個々の教育活動をつなぐ道筋を実践研究し、主体的な学び方を身に付けた生徒の育成を図る。</p> <p>研究の内容・方法 基本的には初年度の内容・方法を充実・発展させる予定</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



- ・ 指導法，指導形態の改善
- ・ 評価の改善
- ・ 個に応じた指導の改善
- ・ 学習ルールづくりと活用
- ・ 学習集団づくりと場の設定
- ・ 特活と総合のタイアップ
- ・ 意欲的に学ぶ心と体づくり
- ・ 積極的な生徒指導
- ・ 教育相談会の充実
- ・ 心を揺さぶる道徳教育

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

各教科研究部では、少人数指導を実施している理科・英語科、T・Tを実施している数学科においては、アンケートからも生徒の意識の変化が見られ、学力向上の成果が見え出している。

特活・総合研究部では、月ごとの行動目標を設定する中で従来にも増して意欲的に取り組む姿が見られ、「藤中ちょボラ」では話し合いや準備のプロセスを通して本番への意欲を高め、当日は黙々と活動する生徒の姿が見られた。

豊かな心づくり研究部では、生徒会や学年・学級を中心に「マナーの藤島」の定着に取り組んだ結果、日常のマナーが徐々に身に付いてきた。また、保護者へのマナーのアンケートを通して、家庭と一体化して研究を進める意義が見えてきた。

各教科会や各部会で学力向上に関わる視点で教師の十分な検討が行われ、その後で実践が行われるようになったため、教師や生徒の学力向上への意識が従来に比べ高くなってきた。

2. 今後の課題

各教科研究部では、個に応じた指導の一層の工夫・改善、生徒のやる気を起こさせるような評価の工夫、学習ルールの徹底、家庭学習の充実などを通して真の学力向上につなげたい。

特活・総合研究部では、執行部や代議員に加え、委員会と教科係との連携を密にした毎月の行動目標に対する取組の自己評価、学年通信への掲載を実践したい。また、「生徒全員が各場面でリーダーになれる」ために、リーダーとしての意識付けを図る機会を年度の始めに設定することが必要である。「藤中ちょボラ」ではその成果を日常生活にどう生かすかが課題である。

豊かな心づくり研究部では、「マナーの藤島」アンケート結果を詳しく分析し、次年度の方向性をつかみ、よりよい実践へとつなげたい。道徳の時間では、担任以外のゲストティーチャーの活用も図り、より生きた道徳となるような研究を進めたい。また、規則的な生活リズムによる心身の健康の保持・増進は学習意欲の向上にもつながることを踏まえ、委員会活動とも関連づけながら支援したい。道徳や生徒指導やカウンセリング、保健などが連携し、豊かな心づくりを目指すとともに、様々な学習にチャレンジし、意欲的に学ぼうとする生徒の育成を図りたい。

学力把握のための学校としての取組

各教科で生徒の学力に関する実態調査を実施

目的： 生徒の学力に関する実態と意識を把握するため

実施内容： 各教科における観点ごとの調査項目（T・Tや少人数指導を実施している教科についてはその指導体制についても含む）で実施

時期： 1学期末

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | |
|--|
| (1) 研究会、説明会等の開催予定
平成16年度秋に、公開授業として成果を発表の予定
県内のフロンティアスクールおよび市内小中学校に案内の予定 |
| (2) 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績(学校としての創意工夫を含む)及び今後の予定
平成15年度末に初年度の研究のまとめとしてのリーフレットおよび実践録の作成予定 |
| (3) フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定
本校の生徒および保護者、校区小学校へフロンティアスクール通信発行 |

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無